

やまがた認知症カフェ通信 2016 9月号

平成28年9月15日発行 発行元／山形県認知症相談・交流拠点さくらんぼカフェ

さくらんぼカフェでは遠方から来られない方も認知症カフェを利用できるように、庄内・最上・置賜のそれぞれの地区ごとに出張交流会を開催しています。今回、庄内地区の出張交流会の様子を紹介します。

認知症相談交流支援事業・出張交流会～in 庄内～ 「庄内 認知症のつどい&かふえ」

庄内では、同じ介護者同士や気持ちの分かり合える方々と介護の悩みや相談、情報交換をもちろん庄内弁で話し合っています。奇数月の第2土曜日、午前10時～12時、酒田市総合文化センターを会場に定期的に出張交流会を開催しています。

参加される方は、鶴岡市、庄内町、三川町、酒田市、遊佐町の方など遠方からも集まります。どなたでも参加可能なこのつどいには、介護家族・当事者はもちろんですが、施設職員・行政職員・薬剤師、作業療法士、認知症疾患医療センターの相談員さん等も参加されることもあり、その時々で専門的なアドバイスをいただくこともあります。

ほとんどは、初めて参加された介護家族のお話を中心に、情報交換の会話が飛び交い、2時間はあっという間に過ぎていきます。お茶やお菓子をいただきながらの会はずですが、皆さんおしゃべりしくて・・・それどころではないという雰囲気！ 今後は一服にも力を入れねば・・・どなたでもお待ちしております！ 無料です。

《7月の出張交流会から…参加者の感想》

「まだ60代だんでも、医者にあるチラシを見て始めて参加した。」
「病院のデイケアの人にも、つどいのごを紹介されて、始めて来てみた。自分だけでね・・・どわかって心強かった。来てえがった。」
「医薬品の卸の仕事をしたんでも、自分達でできることがあったらお手伝いしたいのお～。」
「介護して10年になっけど、初めて来た人だも、いっぱいしゃべって、いい会だ！」



さくらんぼカフェより

さくらんぼカフェから旬の話題をお届けします！

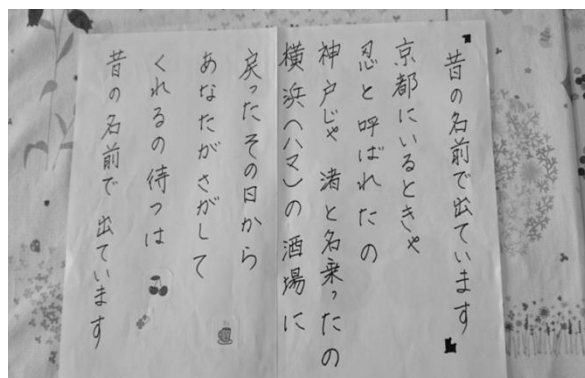
あなたの“思い出のうた”ありますか？

さくらんぼカフェでは、歌の好きな方がいらしたら、スタッフも一緒に唱歌や様々な曲を歌います。“翼を下さい”が好きな方は、表情も豊かに目も口も大きく開き、合唱団のようにのびやかな歌声を聞かせてくれます。傍にいるスタッフも裏声で合わせます。きっと以前は指揮棒を持って指導なさっていたのではと思うほどです。“昔の名前で出ています”の歌を自然に口ずさむ方は、仕事で活躍なさっていた頃、接待のカラオケで歌ったのではないのでしょうか。スタッフも、つい一緒に歌いながら、こぶしが回ってしまいます。

カフェにいらっしゃる方のそれぞれの人生に、少しですが寄り添いながら、歌は欠かせない活動のひとつになっています。



■ 問合せ：さくらんぼカフェ
☎023-687-0387
(平日 昼12時～午後4時)



オレンジカフェ 一鶴岡市一

グループホームふじの花荘において平成 26 年度から始めた「オレンジカフェ」は今年で 3 年目となりました。「地域の中で認知症の人とその家族、地域住民など誰でも気軽に参加できる場所」として毎回イベントを企画し、興味を持ってたくさんの方に参加してもらえるよう工夫しています。

昨年度は、若い世代と子どもたちの参加が少ないことが課題としてあげられました。そのため、今年度は地域の子ども会と連携し、『夕暮れオレンジカフェ』を 8 月に開催しました。夕方の開催ということで、夏休みの子どもたちと仕事帰りのお父さんお母さんたちが、大勢参加して下さいました。参加者は、地域の子ども 27 名、大人 12 名でした。

ミニ縁日では、グループホームの入居者全員がハッピーをきて、わたあめやかき氷、水ヨーヨーの売り子さんをして活躍しました。花火も一緒に楽しみました。最後に子どもたちが「また、来るからね。」と入居者全員と握手して帰っていき、楽しい夏の思い出のひとつとなりました。

当施設でのオレンジカフェの他、昨年度からは春と秋年 2 回、地域のグループホーム 4 施設で『合同オレンジカフェ』を開催し 100 名を超える参加者で賑わいました。

毎回、大勢の認知症サポーターの参加協力があり、オレンジカフェを支える大きな力となっています。

■ 問合せ：グループホームふじの花荘

☎ 0235-64-5880



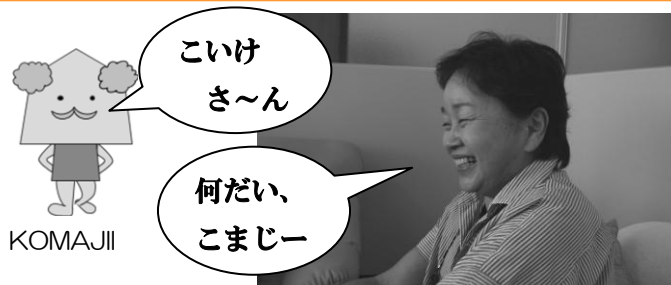
■ 基本データ

運営母体	社会福祉法人ふじの里
場所	山形県鶴岡市藤の花 1 丁目 18-1
開設時間	4 月～11 月までの毎月 1 回、通常 14 時～16 時まで
対象者	グループホーム利用者、地域の方、デイサービス利用者ご家族
利用料金	イベント参加費実費、フリードリンク 100 円、デザート 1 皿 (2 種類) 100 円、中学生以下無料
飲食メニュー	コーヒー、紅茶、ジュース、デザート (チーズケーキ、ムース類、クレープ、シフォンケーキ等)
内容	イベント (苺大福作り、ジェルキャンドル作り等) 終了後にお茶タイムで交流を図っている
スタッフ	グループホーム職員、地域包括支援センター職員、ボランティア、認知症サポーター
宣伝・広報	町内会に開催チラシを全戸配布

ひとり一人の思いを大切に

天童市健康福祉部保険給付課 地域包括ケア推進員

小池千恵子(こいけちえこ)さん 一天童市一



ちょっと前の話…夕暮れ時に「夫が帰ると言っていて聞かないんです。」と、家族から SOS の電話。担当ケアマネとして駆けつけると、やや興奮気味の S さん。「今から帰るんですか」と尋ねると「そうだ!!」と強い口調。「そうですか。今から汽車に乗って行くと、途中の乗り換えがないと思いますが。」「何ない?!」「はい…」何度か繰り返しながら「そうか…ないか」と落ち着いた口調になったところで、「今日はここで風呂にでも入ってゆっくりなさってはいかがですか。」「そうか…」と一段落。またある時は「家を出た。」との連絡を受け、方角を確認し先回り「あら〜」と何気なく「せっかくだから一緒に」とよもやま話をしながら自宅に誘導。家族と一緒に悩み、本人と向き合う時は相対するのではなく、同じ方向に目線を向ける。ある時はタイムスリップしたり…。振り返ればその時の経験が、認知症の理解を後押ししてくれると実感しています。天童でも、ようやく認知症カフェが立ち上がりました。今年初めに、特養明幸園主催の「M カフェ」(1 回/月)それに続き、6 月から市主催の「あったかカフェてんどう」(毎週水曜日)。“あったかカフェ”に参加した、認知症の介護経験のある家族から「もっと早くこうした場が欲しかった」との声も聞かれました。天童市の認知症施策はこれからですが、認知症の人と御家族一人一人の言葉に耳を傾けながら、認知症の人と介護する家族にやさしい地域づくりを目指し、その一翼をちょっとでも担えればと思っています。

(編集部より) 今月は、天童市の小池千恵子さんです。9月初めに、認知症地域支援推進員の全国研修を終えてきたばかりですが、経験豊富でとても頼りになる方です。そんな小池さんからの紹介で、次回は天童市認知症地域支援推進員の高崎健一さんです。

めざせ！カフェマスター

認知症カフェを極めたいあなたに、マメ知識を紹介します。

気になる認知症カフェの運営資金

認知症カフェを開設・運営する際は、人件費・場所代・お茶等の飲食代・講演・コンサート類の費用・食器類などの備品や消耗品の費用などの経費がかかります。認知症カフェをはじめると、この資金をどのようにして調達するかが問題です。今回は、その運営資金、お金について考えてみたいと思います。

『カフェのあり方と運営に関する調査研究事業報告書』(2013年3月 認知症の人と家族の会)によると、認知症カフェの年間運営費は、50万円未満のところと200万円以上のところの大きく2つのグループに分かれ、また、家賃支払い・場所代などの運営資金確保に困っているカフェがほとんどであるとの報告があります。運営資金の財源は自己資金・参加費などの本人負担・各種団体の助成金が殆どとなっています。

認知症カフェ運営の財源として、まず、認知症地域支援推進員が企画運営することにより、補助を受けられる地域支援事業があります。行政主体で開催する時はこちらの財源を利用できます。また、自治体や各種

団体の助成金を利用することもできますので、認知症カフェに関する助成金について情報を集めてみてはいかがでしょうか。本県では、「認知症サポーター活動活性化事業」を行っており、今年度も募集しています。認知症サポーターが活動する場として、認知症カフェを開催するといった事業に助成します。詳しくは、県のホームページをご覧ください。さらに、民間のものとしては、朝日新聞厚生文化事業団によるものもあります。但し、助成金は初年度のみといった場合もあるので、助成金ありきでの開設はカフェの継続が難しくなってきます。継続的に運営できる計画を立てることが必要です。財源と言った意味では少し違うかと思いますが、社会福祉法人の“地域における公益的な活動”として認知症カフェを開催しているところもありますので、認知症地域支援推進員などはそのようなところに働きかけるといったことも必要かなと思います。その他に、寄付金・募金活動をしているカフェもあるようです。認知症カフェを続けていくためには安定した財源が必要となります。

新規オープンカフェ

オレンジカフェ（米沢市）

- 日時：9月21日（水）13:30～15:30
※原則毎月第2・4水曜日、上記時間に開催予定
- 場所：楽友館（米沢市大町5丁目5-14）
- 参加費：100円
- 問合せ：楽らくケアセンター ☎0238-24-0087

認知症カフェ（川西町）

- 日時：9月28日（水）10:00～11:30
※10月26日、11月30日、12月14日、
来年1月15日、2月15日、3月15日開催予定
（3/15のみ場所は浴浴センターまどか）
- 場所：生きがい交流館（川西町大字上小松 1133-4）
- 問合せ：川西町地域包括支援センター☎0238-46-5511

ほっこりかふえ つるおか（鶴岡市）

- 日時：10月13日（木）10:00～11:30
※毎月第2木曜日、上記時間に開催予定
- 場所：鶴岡市高齢者交流センター
（鶴岡市本町一丁目6-7）
- 参加費：100円
- 問合せ：鶴岡市長寿介護課
地域包括ケア・介護予防担当 ☎0235-29-4180

カフェ情報

喫茶あもーれ（山形市）

- 日時：9月20日（火）14:00～
- 場所：グランドホーム檜の木 4階フロア
（山形市桧町10-10）
- 問合せ：グランドホーム檜の木☎023-665-0511

イベント情報

H28年度小白川やすらぎ荘事業 健康講話 認知症

- 日時：10月5日（水）10:00～12:00
- 講師：山形大学附属病院高次脳機能科 斎藤尚宏氏
- 内容：1. 身近な認知症とは
2. 笑顔になる対応方法
3. グループワーク（実体験を共感・共有する）
- 対象者：60歳以上の山形市民 50名
- 場所：山形市福祉文化センター 1階 大講堂
（山形市小白川町2丁目-3-47）
- 問合せ・申込み：山形市福祉文化センター
（東部公民館）☎023-642-5158

認知症施策推進協力員の藤井が皆さまのモヤモヤを解決するコーナー

認知症の専門医って、何科の先生なの？



自分自身や家族が認知症かなと心配になった時、いったい何科の病院・先生に診てもらえばいいのかなと思ったことはありませんか？いきなり精神科に行くのは抵抗があるし、でも内科だと・・・ということで、認知症の専門医について調べてみました。現在、認知症の専門医を認定している学会は日本認知症学会、日本老年精神医学会、日本精神科医学会などがあり、それぞれの学会が認定する認知症専門の先生がいらっしゃるようです。それぞれの学会のホームページに情報が掲載されています。では、診療科については、認知症で思い浮かぶのは、精神科・神経科・心療内科・神経内科・老年科…最近では“もの忘れ外来”などありますね。それぞれの診療科で特徴があり、例えば、精神科だと鬱病との鑑別やBPSDの対応が得意だったり、神経内科では脳や脊髄・神経系の専門家ですので、認知症と他の神経の病気の鑑別を得意とします。といっても迷った時は、まずは高齢者であれば総合的に診てもらえる老年科とか、もの忘れについて気軽に相談できる“もの忘れ外来”を受診した方が良さそうです。その他に、認知症診療の知識と技術などを学ばれた『やまがたオレンジドクター』と呼ばれる先生がいらっしゃいます。県のホームページに掲載されています。

発行元

山形県認知症相談・交流拠点
さくらんぼカフェ
TEL023-687-0387
FAX023-687-0397
皆さまのご意見・ご感想をお待ちしております。

編集後記

とある日曜日のコンビニで、初老のご婦人が私の前で支払いを始めました。やらファスナー付のビニール製透明ポーチからお金をカウンターの上にまき散らしました。店員さんは驚く様子もなく、100円玉など声を出して必要な額を分けてくれて支払完了。残金はご婦人が再びポーチに…。さすが！と思った出来事でした。五十嵐